

会 議 録

1 会議名

平成29年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年1月30日（火）午後7時00分から午後8時05分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、寺島和枝、荷屋和夫、樋口清和、平野宏一、
山田ヒロ子（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、千田主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：小林委員に依頼

議題【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【千田主事】

- ・資料No.1「平成30年度地域活動支援事業案の概要」、
資料No.2「平成30年度地域活動支援事業 谷浜・桑取区の採択方針等について(案)」
に基づき説明

本日は、4月からの募集開始に向け、谷浜・桑取区の採択方針等を協議・決定していただきたい。

採択方針についてだが、優先的に採択する分野の事業例が現状に合わなくなっているものもあるため、一部修正を加えてはどうかと考えている。例としては、地域振興事業の事業例である「耕作放棄地復元モデル事業」だが、分かりやすく「耕作放棄地の復元事業」に、生活環境の向上の事業例の「たにはま公園整備事業」については、たにはま公園の整備は終了しているため、「たにはま公園の活用事業」に修正してはどうかと考えている。その点も含めて協議いただきたい。

【高橋会長】

それでは、採択方針から順に来年度の方針を決めていきたいと思う。

採択方針についてはどうか。

【安達副会長】

優先的に採択する分野の事業例の「たにはま公園整備事業」については、事務局からの提案のとおり修正して良いのではないかと。

【高橋会長】

- ・ほかに意見等がないため、採択方針は昨年度と同様にし、優先的に採択する分野の事業例については、事務局の提案どおり修正して載せることで委員から同意を得る

○募集期間：4月2日（月）から4月27日（金）まで

次に「周知方法」についてはどうか。

【荷屋委員】

地域の団体の方々はいろいろな話し合いの場を持っていると思う。これから開催される小・中学校後援会の役員会の場で高橋会長からPRしていただければ少しは周知できるのではないかと。

私が思うに例年決まった団体だけが提案し、それ以外の人へは、地域活動支援事業の周知ができていない気がする。これでは提案は団体に任せておけば良いということになってしまう。

高橋会長は後援会の役員でもあるので、そういう場で話を出していただき、地域活動

支援事業についてPRしていただきたい。

【高橋会長】

年度末になれば各町内や団体で総会等が開かれると思うので、そのような情報があれば教えていただきたい。

○周知方法：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る
次に「補助率等」についてはどうか。

【坪田委員】

毎年、当区は配分額に対し数十万円の残額が生じているので、当初募集で提案し採択されたが「もっと補助があれば助かる」と思っている団体がいるかもしれない。補助金を有効活用する意味でもそういう団体へ少しでも支援できれば良いのではないか。

【高橋会長】

補助率については、配分額より提案額のほうが上回り、補助率を設定して採択している区もあるが、当区の場合、そこまで設定しなくても良いのではないかと思うがどうか。

【安達副会長】

坪田委員の意見についてだが、当初募集において、事業が採択されたあとに「もっと補助があれば助かる」と思ったら、場合によっては追加募集で提案していただければ良いのではないか。

補助金の予算が余ったら勿体ないと思っても、それは公金なのでどんな提案に対しても採択するというわけにはいかない。

【坪田委員】

追加で補助金を活用したいという団体もおり、余った補助金を有効活用していただきたいと思っている。当区は追加募集は行うが、三次募集は例年、行っていない。

【高橋会長】

当初募集で足りなかった部分については、安達副会長が言うように追加募集で再度提案していただくことも可能なので、そこは積極的に活用していただきたい。

○補助率等：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○審査方法：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○その他：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

全体をとおして何か意見はあるか。

【平野委員】

私が感じていることとして、採択審議が短いように思う。2回に分けて審査するくらいの時間があっても良いのではないかな。

【高橋会長】

私の進行の仕方にも問題があると思うので、平成30年度は皆さんと十分話し合う時間も作りたいと思う。

点数制を導入している区では一旦点数を付けて審議をした上で採決しており、何回かに分けて審議している。点数制にした場合、委員によっていろいろな点数の付け方があると思う。審査項目内でどの項目を重要視するかということによっても点数の付け方が変わってくるので議論する時間も増えるのだろう。

当区でも審議の時間を工夫していきたいと思っている。

それでは、一人ひとり順番に地域活動支援事業について意見を出していただきたいと思う。

【佐藤寿美子委員】

平成30年度も「くわどり謙信公トレイル大会」を実施しようと計画しているが、実行委員会としても、早めに協議を進め提案させていただきたいと考えている。

今回は、前回整備させていただいたものに補足するものが必要ではないかという話をしている。

【佐藤峰生委員】

平成29年度から自己採点票で自己採点し、審査に臨んだが、個人採点のためバラつきがあると思うので、今年は出来れば採点票を会議の場で開示し、皆さんで議論できればと考えている。

提案者に対しては、採択でも不採択でも地域協議会としての結論をきちんと伝えられればと思う。

そして、提案団体には複数年での活動を行っていただきたいと思うので、今年度の提案事業に対して「来年度はどのようにしたらどうですか」というような助言をすることで来年度の提案につながるのではないかな。

【坪田委員】

自己採点票を用意していただいているので、それに従って採決すれば良いと思うが、私が思う一番大事な部分は提案者への対応である。地域活動支援事業の提案者にどのように対応していくか。審査項目の5項目に当てはまったからこそ提案しようと思ひ、事

務局とも話し合いをして提案書を作成され、それを地域協議会で審議するが、できれば提案者の思いに沿えるような審議をしたいというのが私の考えである。

提案書は審査項目を全てクリアしていると思うので、それに対して少しでも提案者が納得できるような審議方法であれば問題ないと思っている。

【寺島委員】

私は地域の役員会等には、参加する機会がなく、地区のことを知る機会が少ないが、今、子育てをしている人や小学校へ通っているお子さんを持っている人はいろいろな悩み等があると思う。私は子育てから離れているが、今何が問題で、何で困っているのかということが分からないので若い人たちと話し合いが持てる場があれば良いのではないかと考えている。そこから、事業提案につながるものもあるのではないかと。

【荷屋委員】

先ほど平野委員が言っていたが、審議に割く時間が短いという感覚があるから問題が出てくるのだと思っている。提案が出揃った時点で事前協議をして採択審査をすればスムーズに進むのではないかと。谷浜・桑取区全体に関わる事業が提案されるので、提案内容を把握していなければ、こちらからは何も言えない。

このような流れで審査していけば委員もレベルアップしていくのではないかと。

【高橋会長】

会議の回数に制限はないので、我々自身が時間を作って、荷屋委員が言うようなことができると思う。

【安達副会長】

事前協議をするということは、提案者に対し誤解を招かないかと。

【荷屋委員】

提案内容について委員同士で議論したいということである。提案に対して意見があるならその場ですべて出していれば良いので、採択審議の時はスムーズに行くのではないかと考えている。

【高橋会長】

事務局は提案者に対し一所懸命指導してくれているが、我々と事務局の感覚がずれる場合もある。提案者にしてみれば、事務局から指導を受けて提案書を出したのに委員から非難される意見が出たら不合理だということを思うかもしれない。荷屋委員が言うように事前協議で委員同士が提案に対する理解を深め、きちんと把握し、最終的に採決す

れば審査もやり易いのではないか。

【滝澤センター長】

ほかにも提案書が出揃った段階で事前協議をしている区がある。提出された提案について、内容の詳細について知っている人と知らない人がおり、知らない人は低い点数を付けてしまう可能性もある。そこで自己採点に差が出てしまう。そのため、提案内容について委員全員が同じ認識を持てるよう事前協議を実施している。ただ、会議の回数が増えるため、採択の決定が遅くなるという懸念もある。

【樋口委員】

補助率についてだが、今まで出された提案に対して100%の補助を行ってきた。提案内容にもよるが、提案者の真剣さを確認する意味でも「補助率を80%や70%くらいにしても事業を行えるのか」という質問を少し厳しい話かもしれないが、今年度はヒアリングの際に、提案者に質問したいと考えている。

【高橋会長】

提案者が一所懸命やればやるほど、我々もそれに応えなくてはいけない。両方の面で良い効果があるかもしれないので、提案者に聞いてみる意義はあると思う。

【平野委員】

以前からお願いしているが、若い人たちとの意見交換はどのようにすれば実施できるのか。事務局では手配できないのか。

【安達副会長】

P T A等へ声掛けをして意見を聞いている。3月10日（土）に行われる地域活動支援事業説明会にも呼び掛けをし、子ども会からも参加してもらいたいと思っている。

【平野委員】

私は、小学生や中学生と意見交換をしたいと思っている。

【高橋会長】

中学生は空き家調査をしたので是非来ていただき、意見交換の場を設けたい。

【山田委員】

何も知識がない中で提案されたものを審査するのは難しい。荷屋委員が言ったように事前に委員同士で協議しながら進めて行くのが良いのではないかと思った。

【高橋会長】

地域へ広く声掛けをするということについては、事務局と協力し、いろいろな団体や

地域の人に声掛けをする努力をしているつもりだが、来ていただかないことには意味がない。

平野委員の意見についてはP T Aを通じて声掛けをし、工夫していければと思っている。

以上で協議事項については終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主事】

現在、諮問等の案件はないため、議題が入り次第日程調整させていただきたい。

【高橋会長】

3月10日（土）に実施する説明会の案内の送付先について参考として、委員宛にも報告していただきたい。

【滝澤センター長】

承知した。

【高橋会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。